

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年、事業目標を立案し、職員会議等で全職員が確認している。その中でグループホームとしての役割も説明している。	「利用者、その家族が希望する、本人らしさを尊重した暮らしを一緒に考えます」との基本理念を職員全員で共有し、利用者ひとり一人に寄り添った支援で、振り返りを繰り返しながら、個々の望む暮らしの提供に取り組んでいました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(どんど焼き・子ども相撲大会等)に積極的に入居者と一緒に参加している。	コロナ禍の中、毎年参加している常田地区の運動会や子ども相撲の観戦もできず、今まで参加していた生き生きサロンも開催されず、今年度は地域との交流は難しいものになっていました。	今年度は、コロナ禍の中、実現不可能でしたので、今後期待しています
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	いきいきサロンや民生委員向けの研修会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、入居者本人・家族・区長・行政関係者に参加いただき、会議を実施している。その場で出された意見を職員にも周知し、サービスに活かしていけるよう全職員と共有している。	コロナ感染対策に伴い運営推進委員会は開催できず、書面で近況報告を行なっていましたが、10月には規模を縮小して開催し、利用者の近況報告や自粛生活の中、ホーム内で3つの行事を開催するなど、入居者の笑顔導くサービス向上に努めていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や必要時にはケア会議に参加いただき、相談している。	市の職員や常田地区役員、ケアマネ、各所との連携が図られていました。利用者個々のケアサービスとして、地域行事や生き生きサロンへの参加など協働関係が良好に確立していました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重大な人権侵害となることを全職員に指導している。日中は玄関等の施錠はせず、またやむを得ず身体拘束が必要な場合には家族にきちんと内容を説明し、同意を頂くことになっている。	職員全員で権利擁護を理解して、自由に散歩に出かける利用者や車いすを自由に扱っている利用者へも、見守り支援で適切な対応を実践していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について、叩く等だけが虐待となるわけではなく、言葉の暴力等も虐待につながることを全職員で確認し合った。職員がストレスをためない等、職場環境にも注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職場内研修等を通し、学ぶ機会を設けている。以前、そのような制度を利用していた方がおり、その制度について職員も理解する努力をしてきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族からの意見や要望は記録に残し、速やかに対応している。	普段の生活状況を写真入りで毎月家庭に届けており、その関係性から家族との信頼関係を築き、意見や要望も言いやすい雰囲気づくりに心がけていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回、事業所会議を実施している。その他にも都度言えるような環境を整備している。	色々な事業所を抱える大きな法人ですが、毎月の会議で各事業所の意見を聞き取り、風通しの良い雰囲気づくりに努め、働きやすい環境へと結びつけていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人として統一された人事考課制度がある。グループホーム内の就業環境についても、グループホーム単体のみならず、フォーレスト全体のこととして捉え、改善に向けて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員ひとりひとりの特性を踏まえ、研修期間や内容を設定している。また必要な外部研修への参加費用や時間を保証している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他法人のグループホーム職員と相互に意見交換する場や、お互いの施設を体験しあう事業に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントツールを活用しながら、事前に本人と面接し、不安に思うことや要望等を聞きとっている。それらに対してすぐに対応し、居室担当職員を中心に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族とも面談し、現在の状況や入所後に望むこと等を傾聴している。入所後も面会時等には全職員が対応できる体制作りをしながら、必要時には管理者が向き合える関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時点で困りごとを伝えてくる家族も多く、法人内にあるサービス事業所も視野に入れながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活という点を常に意識し、(入居者・職員共に)新規入職者へも同様に意識付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に対しても入居者の状況を定期的に伝え、情報共有を図っている。そのうえで家族にも様々な面で協力を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで行っていた馴染みの店や、知人・友人とのつながりを大切に、本人の要望にできるだけ応えられるよう支援している。	地元からの入居者なので、それぞれの地元に出かける機会を設けていきたいとの考えはあっても、今はコロナ禍の中、通院時のドライブだけが外部に触れる機会となりました。	コロナ禍が解消された際は、馴染みの場所への外出など個々の対応が期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースの座席の位置も入居者同士の関係性を考慮している。また入居者同士が居室を行き来しあう場面も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	逝去された方や入院退所となった方、また他施設へサービス移行された方へも訪問・面会等をして、関係性をつないでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所の際には必ず入所後の要望等を確認している。日々の言動を細かく記録し、職員間で情報共有している。フォーレストの基本方針に立ち返ってひとりひとりの意向把握に努めている。	施設サービス計画書で、ご本人、ご家族の意向に寄り添い、体調や病歴、性格や特徴をしっかりと聞き取り、援助の方針を掲げて具体的なサービスに繋げていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初回のアセスメント時には本人・家族に聞き取りをしている。また日々の会話の中で本人からよく出てくる話題や情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事業所会議の中で定期的にカンファレンスを行い、職員間で変更点や現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネを中心に定期的なモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。日々の記録の中で、ケアプランチェックもやっている。	ケアマネージャーからの情報よりケアプランを作成して、日々の介護を実施していました。個々の特性や残された機能を絶やさぬよう細やかなサービスと振り返りが行なわれていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の生活記録に日々の様子等は記載している。また日頃のケアの中での気づき等は、共有ノートがあり、そこへ情報が集まってくる仕組みになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内事業所の機能は活用できている。また多種多様なサービス事業所があるため、その方に合ったサービス利用ができるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用できるよう心掛けている。東御市内の福祉事業所からなる連絡会等へも積極的に参加をし、多職種との連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にかかりつけ医について確認をしている。嘱託医が主治医となることも多いが、専門科については希望するところへ受診している。看護師との情報交換を密にしている。	法人理事長はクリニック医院長であるが、入居時にかかりつけ医の情報とご本人、ご家族の希望を聞き取り、かかりつけ医を大切に通院の実施に心がけていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に連絡相談ができる体制になっている。困った時には看護師が訪問してくれ、適切なアドバイスや指示を出してもらっている。隔週で嘱託医が訪問診療に来てくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医への入院が主であるため、看護師を通じて医師や病棟看護師と情報共有ができやすくなっている。また入院中に見舞いに行く等、状態の把握にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人・家族の意向を事前に聞き取り、事業所としてできることは何か、また嘱託医の指示のもと、当事業所で看取りを行ったケースもあった。	当ホームでは終末ケアを実施し、看取りの経験がありました。その時々のご家族の意向に応えられるサービスを目指して、法人内にある様々なサービスと、専門職員の応援が出来る職員が一丸となって取り組める体制ができていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成。 また緊急時の連絡体制を都度確認し、事業所会議等で周知をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地区の消防団立ち合いのもと防災訓練を実施している。また事業所本体との協力体制も整えられている。	夜間体制は一人になってしまう事もあり、何時でも隣接する介護老人福祉施設フォーレストの職員に応援を受ける体制が整い、法人内で地区の消防団と防災訓練を行っていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々に合わせた声の大きさ、トーン等に配慮している。日頃から介助中も十分にプライバシーに配慮している。(居室へ入る際のノック、トイレ介助中の職員の立ち位置等)	雑巾縫いを黙々と行なっている方、決まった場所に座って寛いでいる方、コップや食器を拭いている方、演歌のテレビを見ている方など、入居者へ敬意を示したさりげない職員の声掛けでそれぞれの時間を楽しんでいました	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	フォーレスト基本方針をもとにケアにあたっている。本人の希望に対し、「できない」ではなく、どうしたらそれが実現できるか、一緒に考えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者全員が同じことをするのではなく、個々の日課を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	寝巻⇄普段着への着替えを促しています。また行事(敬老会等)の際には、女性はお化粧をしたり、男性も普段とは違った衣装に着替えたりと、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日や行事の際には入居者の希望を聞いている。また管理栄養士による食事の喫食調査も行っている。全員が同じ食器を使用しているわけではなく、個々のお気に入りの食器を使用している。	食事はバランスの取れた食欲をそする彩りで、入居者に食べやすい形状や柔らかさにも配慮されていました。グループホームの畑で栽培したミニトマトやきゅうりが食卓にのり、収穫したナスなどの野菜の入ったみそ汁を楽しむ時期もありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が献立を考えている。必要に応じて食事形態を変更している。栄養が偏っていたり、摂取量が十分でない場合は補助食品を取り入れたり、その方の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、口腔ケアの声掛け・実施をしている。必要に応じ、歯科衛生士に訪問してもらい、アドバイスや指示を受ける。また訪問歯科診療にも来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表により、個々の排泄状況の把握に努めている。ポータブルトイレを使用し、失敗回数を減らせるよう支援もしている	リハビリパンツと尿取りパットを使用し、ご本人の自発的な動きをサインに、さりげない介助に心がけていました。自室にポータブルトイレを置くなど、個々の利用しやすい形態で安心して排泄できるように配慮していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表により、個々の排便パターンを確認し、必要に応じて水分摂取を促している。それでも便秘傾向となる場合には下剤を使用してコントロールする。看護師と情報共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週に2回を基本に入浴支援している。時間帯も午前・午後の時間、毎日実施。季節に応じた変わり湯を楽しんでいただいている。	ご本人の生活習慣に配慮し、その時々のお気持ちに沿った対応をしていました。入浴を拒む方には、毎日お尻を拭く事を繰り返し、その時々タイミングで入浴支援に繋がれるように努めていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活環境を整え、安心して休息できる居場所を提供している。寝具類も定期的に変え、気持ちよく眠れるようにしている。夜間帯は夜勤者が睡眠状況を把握している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	月に2回、定期処方がある。薬の仕分け管理作業により、個々の服薬内容が把握できる。何か気になる点や変化時には看護師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行事の際には飲酒できるよう、お酒を提供することもある。敷地内に畑があるので、入居者が畑仕事を楽している。ゴミ袋へのシール貼り作業を請け負っているため、それを行うことで生活の張り合いや達成感につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度は外出ができなかったが、毎年初詣やいちご狩り等へ出かけている。また日常的には玄関先や中庭へ出て外気にあたる等の支援を行っている。	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出や行事、面会等が制限されてしまっています。天気の良い日は日光浴を楽しんだり、通院時のドライブを楽しんでいました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際に入居者個人のお金で欲しいものを購入できるようにしている。 またシール貼りの請け負い作業を通じて稼いだお金で、入居者全員で外出する機会も設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事前に家族への協力をお願いし、電話を掛けることは自由にできている。また個人で携帯電話を持っている方もおり、充電等の支援もしていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下の間に中庭があり、吹き抜けのようになっているため、そこから光がさしたり、十分な明るさがある。共有スペースは窓も大きく、景色も見やすい。季節に応じた飾りつけもしている。廊下やトイレも車いす対応となっているため、十分な広さになっている。	共有スペース(リビング)を中心に1周出来る廊下で各部屋が繋がれ、各部屋には洗面台が設置され、昨年からエアコンも完備されました。廊下中心部にトイレ(3か所)と浴室があり、リビングは対面キッチンで、広い窓で明るく、可愛いカーテンで彩られ、各所に色鮮やかな鉢植えの花が置かれるなど、過ごしやすく温かい雰囲気になっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スペースの関係上、なかなか1人になれる空間は整備できていないが、馴染みの入居者同士が好きなように過ごせる工夫は行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には入居前に使用していた家具等の持ち込みを推奨している。またテレビを設置し以前の生活環境と変わらず、気兼ねなく過ごせるよう配慮している。	各部屋は、個々で持ち込まれた家具や布団、写真等で、それぞれが馴染める空間作りに努めていました。ベッドの配置や衣類の整理方法も、個々の納得のいく、安心できる部屋作りを行っていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー設計になっているが、転倒リスクの高い入居者へは了承を得てセンサーマットを使用している。そうすることで安全面も確保でき、行動も制限されず、「できること」が継続される。		